

【足立区医療的ケア児ネットワーク協議会】会議概要

会 議 名	令和5年度第2回足立区医療的ケア児ネットワーク協議会
事 務 局	福祉部 障がい福祉課
開催年月日	令和6年2月8日（木）
開催時間	午後6時45分～午後8時15分
開催場所	足立区役所南館13階 大会議室A
出席者	別紙委員名簿のとおり
欠席者	別紙委員名簿のとおり
会議次第	1 足立区障がい福祉関連計画の策定状況について 2 総合防災訓練（11月12日開催）における医療的ケア児避難訓練実施報告 3 その他 令和6年度の医療的ケア児の保育園・小中学校での受け入れについて
資 料	1 次第 2 医療的ケア児ネットワーク協議会 委員名簿（資料1） 3 足立区医療的ケア児ネットワーク協議会設置要綱（資料2） 4 足立区障がい福祉関連計画策定の進捗状況について（資料3） 5 令和5年度 足立区総合防災訓練 福祉避難所開設・運営訓練（資料4）

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

【日吉委員】

ただいまより、令和5年度第2回医療的ケア児ネットワーク協議会を開催する。

はじめに、福祉部長の中村より挨拶させていただきます。

【中村委員】

今年に入って早々に能登半島の地震があった。1ヵ月経っているが、まだ安否がわからない方がいるという状況で、大変な事態だと思っている。足立区も1週間くらい経った時期に被災地から物資の要請があって、ブルーシートやミネラルウォーター等を運んだ。また、職員の派遣について、社協職員の要請があり、これから現地に赴くという状況になっている。福祉避難所も立ち上がっているようだが、高齢者や障がい者はそこの生活が困難ということもあり、先週くらいから足立区内の都営住宅に高齢世帯の方が引っ越してきている。区としてできる限りバックアップしなければならないと思っており、衛生部、福祉部、住宅の所管と連携しながら、受け入れについて万全の体制を取っている。

今日は議事が3つあるが、総合防災訓練の報告もある。あの事態を見ると、まだまだ足立区の自然災害の対策は十分でないところがあるし、災害時の弱者対策になるものをより充実していかないといけないと思っている。命がかかっている問題なので、今日は皆さまから様々な意見を頂戴し、さらに準備を整えて参りたいと思っている。忌憚ない意見をお願いしたい。

【日吉委員】

資料はホチキス止めのもの1部を机上に配布している。本日は1枚目の次第にそって進めていく。

それでは、これより議事に移る。議事の進行は玄会長をお願いしたい。

1 足立区障がい福祉関連計画の策定状況について

【玄会長】

それでは次第にそって進める。短い時間になるので、皆さまから活発な意見を賜りたい。

まず、議事1について、事務局から報告をお願いしたい。

【二見事務局員】

資料3をご覧ください。足立区障がい

福祉関連計画策定の進捗状況について報告する。

第1回医療的ケア児ネットワーク協議会の際に、このような計画を策定しているということで説明させていただいた。その3つの計画を現在策定している。今回、開催通知と一緒に素案をお送りしているが、既にこの素案に様々な修正を加えながら、最終的な案の策定に進んでいる。

その前段として、パブリックコメント等を実施した。令和5年12月15日から令和6年1月15日まで、インターネット、区の窓口等で意見の募集をかけた。48名の方から52件の意見をいただいているが、同じ内容の意見がたくさんあり、同じ趣旨の意見を整理すると、件数としては7件となっている。提出方法としては、窓口を持参いただいた方が1名、区ホームページの意見受付フォームに入力いただいた方が47名となっている。

また、平行して関係団体ヒアリングということで、区内で事業を運営している社会福祉法人と障がい者団体に声を掛け、1団体・3法人からヒアリングを実施した。実施方法としては、対面でのヒアリングは1団体・2法人、書面での提出が1法人となっている。

パブリックコメントと関係団体ヒアリングで出た主な意見を表にまとめている。内容として一番多かったものは、バリアフリーに関することとなっている。歩道への点字ブロック設置・段差解消について、鉄道駅のホームドアの設置や東武鉄道堀切駅のバリアフリー化等鉄道に関すること、バリアフリースイレへのユニバーサルベッド設置促進、河川敷にある車いすが通れない車止めの改善。また、障がい者用駐車場で扉を開ける両サイドはスペースを取っていることが多いが、後ろ側が狭いということで、障がい者用駐車場の後部スペースを拡張してほしい等、バリアフリーに関する意見が全部で50件。重度者に対応できる共同生活援助の設置推進が4件、強度行動障がい者のニーズ把握と対応が3件、福祉人材の確保・インターンシップの推進が3件、相談支援体制の強化が2件、日常生活用具の給付対象拡大が1件となっている。

今後のスケジュールとして、パブリックコメント等で寄せられた意見を踏まえて、現在、素案を改訂して計画案の策定を進めている。これを2月下旬までに作成し、区議会厚生委員会、地域保健福祉推進協議会、地域自立支援協議会に報告し、令和5年度中に計画とし

て策定するというスケジュールになっている。

お送りした素案から現在の計画案は大幅にバージョンアップしている。意見があれば、事務局へご連絡いただければ説明させていただく。

【玄会長】

意見があった際の連絡はいつまでか。

【二見事務局員】

出来上がりつつあるので、早めにいただきたい。意見があれば、この場でもお伺いする。

2 総合防災訓練（11月12日開催）における医療的ケア児避難訓練実施報告

【玄会長】

それでは次に、議事2について事務局から説明をお願いしたい。

【二見事務局員】

資料4をご覧ください。令和5年度足立区総合防災訓練福祉避難所開設・運営訓練について、報告する。

昨年、総合防災訓練を久しぶりに実施したという報告をさせていただいた。また、防災訓練とは別に、車いすの方の民間救急を使った移送訓練を行ったという報告をさせていただいた。その際に、医療的ケアのある方等の避難訓練も実施してはどうかと意見を頂戴したので、今年度は総合防災訓練に合わせて医療的ケア児等の移送受入訓練も実施した。その様子をVTRにまとめたので、あとでご覧ください。

まず、内容について簡単に説明させていただく。訓練実施日は令和5年11月12日。福祉避難所の開設訓練を福祉部が担当し、障害者施設、高齢者施設で福祉避難所として協定を結んでいる10か所の施設で開設訓練を実施した。そのうち、綾瀬なないろ園、綾瀬福祉園は、第1次避難所からの移送受入訓練ということで、第1次避難所に避難された方で福祉避難所の方が適切と判断された方について、第1次避難所から区が用意したバスを使って福祉避難所へ移っていただくという訓練を実施した。

また、障がい福祉センターあしすとでは、医療的ケア児等の移送受入訓練を実施した。内容は、水害時避難を想定した避難行動要支援者の移送および受入訓練。協力をお願いして受けてくれた世帯が3世帯あった。①の方は医療的ケア児で自家用車による避難をする

方。本人・父・母の3人で避難するという世帯。②の方も医療的ケア児で、区で用意した民間救急事業者による避難訓練で、本人・父・母の3人で実施する予定だったが、体調不良のため実施できなかった。③の方はストレッチャー対応者ということで、高齢の障がいをお持ちの方で、大きめのストレッチャーに乗っている方。こちらも民間救急事業者による避難訓練ということで、本人・妻の2人で実施した。

スケジュールは、11月10日、訓練実施日の前々日の10時に災害対策本部を設置。14時に避難情報予定情報ということで、大規模な水害の発生が予想されるので避難の準備をしてくださいという情報を、介護サービス事業所、移送事業者、福祉避難所でケアを担当する職員にお知らせした。実際のタイムラインでは、この後の災害の状況に応じて、避難指示が段階的に行われるが、今回は訓練ということで、11月12日9時に職員が参集して打ち合わせをすると同時に、要支援者家族に避難の連絡をさせていただいた。併せて、介護サービス事業所にも連絡をし、現地では避難所開設、受入の準備を進める。実際に避難を開始していただいたのは10時で、①の方は自家用車、③の方は民間救急事業者で障がい福祉センターへ向かって出発していただいた。10時30分頃、障がい福祉センターに到着し、受付で避難者カードを記入した後、それぞれの居室へ誘導。そこでケアの体験、段ボールベッド、トイレの確認をしていただき、意見交換をした。11時15分に帰宅準備、11時20分に障がい福祉センターを出発し、帰宅確認をして訓練終了という流れで実施した。この訓練の様子を動画にまとめたのでご覧ください。

—動画視聴—

このご家族は本来は総合スポーツセンターに避難する方だが、今回は障がい福祉センターで訓練していただいた。引き続き、こうした訓練を積み重ねていき、水害のようにあらかじめわかっている部分と、元旦の地震のように突然スタートする部分は全然ちがうと思うので、そのあたりもノウハウを積みながら、避難訓練を継続していきたいと考えている。

【玄会長】

今のところ水害対策ということだが、地震対策も詰めていかなければいけない。そのあ

たりも踏まえて、皆さまから意見をいただきたいと思う。地震はいつ起こるかわからず、今回は夕方、3・11は14時頃ということで、学校へ行っていたり、サービスを利用していることもある。施設等での対策も考えていかなければいけないが、齋藤委員からお伺いしたい。

【齋藤委員】

福祉避難所の中に、介護老人保健施設千寿の郷（柳原2丁目）がある。千寿桜堤中学校も柳原2丁目にあるが、柳原地域は東京都の中でも危険度が3番目となっている。とても密集しており、土地が低い。また、改善されてきているが、道幅が狭く、消防車が通れないところもある。水害を想定した時、校舎は4階建てだが2階までは浸水してしまう想定。私が4月に着任した時は、備蓄倉庫が1階にあるという状態だった。勉強会と称して、夏休みに防災について柳原町会の方々と子どもたちで話し合いを行い、どのような課題があるか等意見交換をした。実際の避難所開設の幹部職員や担当職員との打ち合わせも進めてはいるが、実際に避難所となった場合どうしたら良いのだろうと心配している。屋上にボートを置いてくれないと困るということを前任の校長は仰っていた。

先日、実際に垂直避難の練習を行った。3階の2年生と4階の1年生はそのまま教室で、3年生と職員が上の空いている教室に避難するというを行い、5分以内に避難することができた。また、夏休み中に備蓄倉庫の物を半分に分けて、3階の多目的スペースにトイレ、水、食料等を半分移動させ、職員や生徒の意識を高めようということを行った。

介護老人保健施設千寿の郷へ避難する方々はここで大丈夫なのかと思った。また、津波が来ることを考えると30分はあるので、北千住駅の方へ逃げる練習も必要かと考えたりしている。この地域の方々は高齢化しているので、避難所開設訓練をしても実際の参加率という面では難しいと感じている。

また、ケアが必要な方々がここでは厳しいとなった時の第2次避難所のようなところは想定されているのか。能登半島でも、第1次避難所に避難した後、第2次避難所に行きたがらないという実情もあるので、そのあたりが実際にどうなっているのかと思った。地域の方々への発信、みんなが知っているということが大事だと思う。

また、動画を見て、実際にやってみるとい

うことは大事だと思った。ベッドの高さやトイレにベッドが設置されているかということを確認していたが、導尿のお子さんはトイレに横になれるベッドがないと厳しいということをお聞きして、新しくベッドを買っていたという経緯もある。避難所を想定した時には、そのような医療的な面の必要な器具等もないよりあった方が良かったと思った。

【山本委員】

医療的ケアがある方の避難には電源が大事になる。足立区は日常生活用具の中に、呼吸器の方を対象に蓄電池、発電機、カーインバーターの助成がある。対象となる方へこのようなものを使えそうですよとお伝えしている。物は何を選んだら良いのかという情報が何もないので、インターネットを使って色々なメーカーを調べている。メーカーからは医療機器として推奨しているものではないとよく言われるが、そういうことを情報としてお伝えしている。

【寺山委員】

水害を想定した避難訓練だったが、何年か前に実際に水害になりかけた時、近くの中学校の1階に避難したら、ここも浸水しそうだということで、みんなで2階に移動したということがあった。近所の高齢者は最初から指定された避難所ではエレベーターがないので、垂直避難が大変ということで少し離れた小学校へ避難していた。実際に起こってみると、机上で計画していたとおりにはいかないことが多かったが、実際に避難してみて良い経験になったと言っている人が多かった。幼稚園も地域の施設だが、町会との連携が大事だと思った。町会や地域の民生委員さんが要支援リストをお持ちだと思うが、個人情報なので把握が難しいと町会の人が言っていた。個人情報と支援が必要な方々の把握のバランスが難しいと思った。

水害時には幼稚園は原則閉園になるので、突発的な水害の避難ということはまだ想定していない。非常物資があっても、マンホールトイレ等は水害時には全然使えない。2011年の地震の際に、地震に対する対策は色々できたが、水害時はまだ弱いと思った。色々な災害に備えた対策が必要だと感じた。

【玄会長】

地震が起きた時に水害も起こる可能性は大きいので、水害を予想して準備されても、そ

れは地震対策にもつながると思う。

また、町会や地域と連携することが大事であったが、そこをどう進めていくかが課題だと思う。

【馬場委員】

重症心身障害児（者）を守る会では、毎年、災害に関する学習会をしている。6日に勉強会をする予定だったが、雪のため来週に延期している。内容としては、実際の避難を想定した時の物資の確認。個人で色々買おうとすると大変なので、医療的ケア児でも食べられる、水の量を調整するとご飯の硬さが変わるお粥のセットを購入して、ミキサーにかけて食べてみるということをやる予定。個人で色々と考えて準備している人は多いが、もう少し勉強なおして、それぞれが必要な物をもう一度見直してみる機会になったら良いと思う。私は障がいの子どもがおり、どうしたら良いかということを考えながら行動しているので、それを会員のみんなに下ろして、考え直す機会にしたい。

個人的なことになるが、私の子どもは24時間人工呼吸器をつけているので、やはり電源のことが心配。3・11の前にエネポを買っていたので、HONDAの方に使い方を教えてもらいながら実際に動かすところを見せてもらおうという勉強会も行った。

【五十嵐委員】

城北分園の災害対策で一番大きいトピックとしては、花畑学園の協力を得て、花畑学園の3階の1室に避難できる場所を用意していただいて、城北分園から職員が自家発電機や医療物品等の必要な物を一式揃えて、カルテを持って、運び込むということをやらせていただいた。足立区内でも水没やすい地域ということで、そのようなことを想定してやっているようになっている。城北分園は低い建物なので、3階以上へ避難となると一番近い花畑学園になる。実際に訓練してみると、早め早めに手を打っていかないと難しいと思った。また、ご家族も身動きが取れないのではないかと、葉はどれだけ保管しておいたら良いかを考えると、色々準備が必要だと思った。年2回は通園、通所、スタッフ合わせて地震を想定した訓練をしているが、水害に関しては判断が難しいので、実際どのように行動するのかを訓練していかないといけないと思った。利用者は呼吸器をつけていたり、チューブがつながっていたりという状態なので、衛

生上の問題も考えなければいけない。また、避難所のみながいるところで導尿はできないのでどのようにしたら良いだろうかとか、そのようなことも含めて考えていきたい。

【廣岡委員】

先ほどの防災訓練をしていた子は、うちの卒園生だった。インクルーシブを大切にしている園で、お母さんも絶対うちに入れたいと仰って、千住から通われていた。このようなことがあった時に、当事者として参加していただけるということは、インクルーシブで良かったと嬉しく思った。

災害について、うめだ「子供の家」は保育園にしては珍しく4階建て。倉庫は園庭と屋上にあって、備蓄するものは2つに分けている。水害時に必要となるものは上という形で準備を進めている。地震等が起きた時に、私たちのところのような0歳児がいる保育園は、そこを離れて別の場所に避難するということは非常に難しい。近年、保育園の建て替えも進んでいて、建物としての耐震性は高くなっている。備品や落下物、高所に置いてあるものへの取り組みが課題となっている。物が多い分、落下したり倒れたりというところに一番気を使っている。

保育園には施設機能強化推進費というものがあり、うちの保育園規模で年間15万円くらいだが、備蓄品の食料や水を入れ替えるとほとんどなくなる。特別なニーズを持った方の装置やバッテリー等を準備しようと思うと施設機能強化推進費だけでは難しい。一方、支援児の色々な加算は人件費以外認められていない。歩行等の機能的な問題で園の改装や色々な装置をつけたいという場合の予算措置は、発達支援の加算の中では認められていない。施設機能強化推進費のさらなる充実か、あるいは発達支援の加算の中で、今後医療的ケアのあるお子さんの受入を考えた時の設備的な措置を取るために、どの財源を使えるのかということも是非検討していただきたい。

【寺島課長（オブザーバー）】

先ほどご覧いただいた訓練の映像は水害時を想定したもので、あらかじめ策定された個別避難計画に基づいて、今回は総合スポーツセンターではなかったが、台風の接近に伴って、事前の避難行動をとるという訓練をしていただいた。

震災に関しては、先日区議会の文教委員会で、震災時においても医療的ケア児の避難行

動計画を策定した方が良いのではないかと
うご意見を頂戴した。震災の場合、私たち職
員もどれだけ参集できるかわからない状況が
ある。また、契約している移送業者も本当に
動いていただけるのか、お願いしているケア
スタッフもしっかり揃うのかというような課
題があると思っている。当然、道路状況がど
うなっているかわからないし、避難する予定
だった建物が本当に建っているのかというよ
うに、色々な課題がある。現状では、震災時
の避難行動計画を策定することは難しいので
はないかと考えている。避難行動要支援の
方々の名簿は地域の民生委員の先生方にお持
ちいただいている。先生方の安全を確保する
ことが第一だが、その上で避難行動要支援者
の方々の安否確認をしていただくということ
をお願いしている。どこかへ避難するよりも、
まずは安否確認をしていただくことが第一歩
だと思っている。震災時の避難行動計画が策
定できるかどうかということについては、
今後検討していく。

3 その他

令和6年度の医療的ケア児の保育園・小中 学校での受け入れについて

【玄会長】

次に、議題3について事務局より説明をお
願いしたい。

【早崎委員】

先ほど2019年の台風19号の話があっ
たが、中川の決壊が差し迫っているというこ
とで、私は避難所の小学校に行き2泊した。
窓を殴り壊さんばかりの勢いで風が吹いてお
り、本当に決壊してしまうのではないかと
いう状況だった。その時、町内会や自治会の地
域の方々にとっても一生懸命対応していただ
いた。逆に行政の私たちの方が駆けつけるのが
遅くなったところも正直ある。車椅子の方が
来たが、学校にエレベーターはなかったのも、
手で持ち上げたり、ベッドの問題等、現場は
様々な課題があると感じた。その小学校の地
域の方々の取り組みはとても優れていて、そ
の後も東京都と意見交換をする会も行ったよ
うだが、本当に地域の方々との連携は大切だ
と思う。

本題に入り、保育園、小中学校での受け入
れということで、草野委員から質問をいただ
いていた。前回説明した内容で大枠は変わっ
ていない。小学校は今年度までモデル実施と
いうことで、3校で受け入れをしている。来

年度は6名で2倍になる。保育園のガイドラ
イン等は区のホームページに載せている。来
年度から始まる小学校のガイドラインは、保
育園のものを横引きし、うまく活用しながら
作っていきたいと考えている。1点ちがうと
ころは、保育園には看護師がいるところがあ
る。一方で、小学校は養護教諭はいるものの、
看護師ではないので、保育園と小学校の連携
が欠かせないものになる。看護師のいる保
育園に近い学校を拠点校と呼び、連携を進め
ていきたいと考えている。痰の吸引はいつ起
こるかわからないので、常駐という形をとっ
ていくことを考えている。スクールアシスタ
ントという制度で、認定特定行為業務従事者
の研修をクリアした方々が現在常駐している。
また、訪問看護事業者の力を借りて、痰の吸
引以外の導尿等は訪問看護事業者へお願いし
ている。来年度、痰の吸引は1名1校、導尿
は5名5校になる予定。

小学校へ医療的ケア児のアンケートを行い、
現在医療的ケア児は23名いる。ケアを自分
でできるというケア自立は18名ということ
になっている。

保育園については変わらず拠点園5園でや
っていく予定。

【玄会長】

保育園は5園で今後も進めていく、小学校
は今年3校だったところが6校になるという
ことであった。

今の説明について、質問等あれば伺いたい。

【草野委員】

ガイドラインについては、ホームページを
参考にさせていただく。

現在相談員として担当している医療的ケア
のお子さんがあり、その親御さんから具体的
な意見をいただいた。保育園でたくさんのお
子さんを預かっている中で、お一人の意見を
通すことは難しいと思うが、来年度、再来年
度にどんどん受け入れ体制が改善していくよ
うに、紹介させていただきたい。

吸引が必要なお子さんだが、担当の保育園
の看護師が吸引のタイミングがわからないと
いうことがあったり、その子にずっと付き添
っていることは難しいということで、気管切
開の蓋のフィルターのところがびしょびしょ
に濡れて、痰が詰まって、息が苦しいような
状態でも放っておかれることが多いとのこと。
そのような状況を保育園とも話をしているけ
ど、人的要因等なかなか難しいようで、お母

さんは心に留めている状況。また、保育園で遠足や少し外にお散歩に行く時に、そのお子さんはまだ参加できない状況にある。園外に行くとなると看護師の付き添いになるが、看護師は保育園の中にいないといけないという縛りがあるので、お母さんが来てくださいますと言われて、仕方なくお休みするというような制限がある。また、プールは安全の面から気管切開のお子さんは参加できないと言われていたが、来年度はどうにかならないかなとお母さんは仰っていた。このような形で、実際に制限が生まれているという状況なので、一つずつ問題を解決していけたら良いと思っている。お母さんからの発案だが、先ほどスクールアシスタントで学校には常駐するというお話があったが、保育園の看護師さんが難しいのであれば、派遣制度や訪問看護事業所でやっている事業サービスもあるので、それで入ることができればお子さんの体験の機会を奪うことにはならないと思うので、難しいようであればその方面でも考えていけたらと思っている。

【玄会長】

実際に園を使われている方のお母さんからの意見を紹介していただいた。園の事情もわかるけど、少しずつ改善していけたらということだった。訪問看護事業所が派遣できたら良いというお話があったが、山本委員の意見を伺いたい。

【山本委員】

保育園への派遣については難しいので、私の方からお話することは難しい。小学校のモデル事業の方で、関わっているお子さんがいる。来年度から入ってくださる訪問看護事業所へ、うちのスタッフから一年間やってきた状況や体験談の話をさせていただいた。その子の成長とともに、自立できるように支援していけたら良いと思った。

【玄会長】

実際に小学校で関わっているということで、体験談を話し合うという場があるというのは良いことだと思った。小学校の先生方も怖がらずに医療的ケア児を見ることができるというメリットもあると思う。

【山本委員】

顔見知りの看護師がケアをするというところにもメリットがあると思う。

【玄会長】

訪問看護として入っており、その看護師が小学校にも来てくれるということで、親御さんとの人間関係もできていて、子どもも怖がらないというとても大きなことだと思う。

寺山委員にお伺いしたいが、足立つくし幼稚園にも医療的ケア児はいるのか。

【寺山委員】

現在、医療的ケア児はいない。以前、人工肛門のお子さんがいたが、普段の生活には支障がなく、特にケアはしていない。また、糖尿病のお子さんが何名かいらっしゃって、その時は、親御さんが注射をしに来てくださっていた。

吸引のお子さんが入園することが決まると、専門の訓練を受けることができて、幼稚園の先生でもケアをできるという制度がある。しかし、実際には難しくてなかなか踏み出せない。最近では看護師のいる保育施設が増えたこともあり、以前は胃ろうや吸引の方の問い合わせがあったが、最近問い合わせは少なくなっている。

【廣岡委員】

うめだ・あけぼの学園のお子さんがうちに来た時に、痰吸引のお子さんやカニューレ使用のお子さんの経験がある。うめだ・あけぼの学園に看護師がいらっしゃって、うめだ・あけぼの学園のお子さんがうちに来ている間に何かあった時はその看護師が対応することを前提にしながらも、出張や手が離せないこともあるので、うちの園にいる看護師にも痰吸引の研修を受けてもらい、対応ができるようにしている。気管切開のお子さんはカニューレを自分でいじってしまったり、遊んでいる時に取ってしまったりすることがある。

また、保育園の子どもでちょっとした切り傷に絆創膏をつけるだけでも、知っている先生、慣れた先生でないと触らせないということがある。看護師でも子どものことを知って、関係性ができているからケアができるということがある。専門性があるからといって、子どもが医療的ケアをスムーズに受けられるかということについては疑問がある。

【玄会長】

看護師でも知らない人だと触らせてくれないこともあるというお話だった。単に人がいれば良いということではなく、信頼関係を構

築していかないと、医療的ケアには進まないということを感じた。

保育園での吸引については一番の問題ということになるし、医療的ケア児も少しずつ重たくなってきている。実際に保育園から小学校に上がる時には成長するので、気管切開が抜けたり、胃ろうがだんだんなくなったりという、ちょうど過渡期の発達で難しいと思うが、少しずつ改善できるようにしていければと思っている。ここの課題については、今後も継続的に検討していきたいと思う。

それでは、時間になったので、本日の議事は終了する。

【二見委員】

本日の議事録については、こちらで作成し、皆さまに送付するので確認をお願いしたい。

本年度の医療的ケア児ネットワーク協議会はこれで終了となる。来年度については、改めて連絡させていただく。可能であれば、引き続き委員をお願いしたいと思う。

【日吉委員】

色々と対応していかなければいけないような意見もいただいたので、引き続き区の関係所管で検討させていただき、より良い形で医療的ケア児の施策が前身するように、区一丸となって進めていきたいと思う。来年度も引き続きご協力をお願いしたい。